

用語集

- ①熱田層
- ②熱田台地(名古屋台地)
- ③年魚市潟
- ④暗渠
- ⑤液状化現象
- ⑥横堤
- ⑦鸚鵡籠中記
- ⑧尾張丘陵
- ⑨滑動崩落
- ⑩帰宅困難者
- ⑪旧河道
- ⑫緊急雨水整備事業
- ⑬洪積台地
- ⑭御器所台地・瑞穂台地
- ⑮穀倉地帯
- ⑯災害救助法
- ⑰災害対策基本法
- ⑱砂礫層
- ⑲自然堤防
- ⑳浚渫
- ㉑松濤棹筆
- ㉒シルト
- ㉓新田開発
- ㉔谷底平野
- ㉕沖積平野(低地)
- ㉖長周期地震動
- ㉗土地条件図
- ㉘富田荘絵図
- ㉙内水はん濫
- ㉚根尾谷断層
- ㉛噴砂
- ㉜谷戸

約4～15万年前に堆積した層で、上部は砂層、下部は泥層でできている。

名古屋市中心部の南北に長い台地。熱田台地の北端には名古屋城、南端には熱田神宮があり、西端には堀川が流れている。北側を名古屋台地、南側に伸びる部分を熱田台地という場合もある。

昔、熱田区から緑区の範囲に広がっていた遠浅の海岸線。

地下に埋設したり、ふたをかけたたりした水路。

水を含んだ砂質地盤が地震の際に液体のように噴き出す現象。噴砂現象、クイックサンド現象ともいう。

川の流れにほぼ直角に築かれた堤防。

1700年前半の尾張藩家臣であった朝日重章(朝日文左衛門)が下級武士の日常を記した日記。

愛知県中西部(旧尾張国東部)、濃尾平野東側にある丘陵。

谷間や山の斜面などにおいて造成されたひとまとまりの宅地が、地震による大きな揺れによって滑ったり崩れたりする現象。(国土交通省HPより)

災害時に外出している者のうち、自宅が遠距離にあることにより、帰宅を断念せざるを得なくなったり、遠距離を徒歩で帰宅することとなった者。

過去における河川流域の跡。

平成12年9月の東海豪雨や平成16年9月の集中豪雨を受けて、原則1時間60ミリの降雨に対処できるよう貯留施設などを整備する事業。

主に更新世(洪積世)という時代(約258万年前～1万年前)に堆積した地層からできている台地。

熱田台地の東側の台地で千種区の上野あたりから瑞穂区井戸田町までの台地の北側部分を御器所台地、南側部分を瑞穂台地という。

穀物を豊富に産する地域。

災害に際して、国が地方公共団体、日本赤十字社その他の団体及び国民の協力の下に、応急的に必要な救助を行い、災害にかかった者の保護と社会の秩序の保全を図ることを目的とした法律。(昭和22年10月18日制定)

国民の生命、身体及び財産を災害から保護するため、災害対策全般を体系化し、総合的かつ計画的な防災行政の整備及び推進を図ることを目的とした法律。(昭和34年の伊勢湾台風を契機として、昭和36年に制定された。)

砂と小石の層。砂層は砂・砂質土の層、礫層は小石の層をいう。

河川の上流から運搬されてきた砂などが河道の岸に沿って堆積して形成された微高地。

水底をさらって土砂などを取り除くこと。

江戸時代後期の武士、奥村徳義(得義)の記した随筆。

砂と粘土との中間の粒形をもつ碎屑物。

海を埋め立てたり、原野・山林など耕作されていない土地を田畑に耕作すること。

河川の堆積作用によって形成される沖積平野のうち、山間部の谷底に形成されるものを指す。

河川等により運ばれた砂や礫、泥等が堆積して形成される層からできた平野(低地)。

南海トラフ巨大地震のような比較的規模の大きな地震で生じる、ゆっくり大きな揺れのこと。長周期地震動は、特に高層ビルの高層階で大きく揺れる。(気象庁HPより)

2万5千分の1地形図の上に地形分類(山地、台地、低地など)や地盤高線(1m間隔の等高線)や主な防災関係機関等を重ねて表示したもの。(国土交通省HPより)

14世紀前半に、中川区富田町を中心とする地域にあった荘園を描いた絵図。

雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えるときや河川の水位が高くなったときに、雨水を排水できなくなり、マンホールや側溝等から雨水があふれて浸水すること。

岐阜県本巣市根尾谷地域を中心とする活断層。1891(明治24)年10月28日に発生した濃尾地震で活動した濃尾断層帯の1つ。

地震による液状化により水と砂が噴出してくる現象。

丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形。

掲載区:

千種
千種、北
南、緑、天白
東
千種、東、中村、中、昭和 中川、港、守山、緑
千種
東
天白
緑
中
瑞穂、中川
北、守山、天白
東、北
昭和、瑞穂
港
中、瑞穂、守山、緑
中、緑
千種
中村、中川、天白
北、港
北
中村
緑
緑、天白
千種、東、北、中村 瑞穂
中村、中
緑
中川
港、南、緑、名東 天白
中
千種、西、中村、港 緑
千種